

Harmand, Adrien. *Jeanne d'Arc, ses costumes, son armure*. Paris, Ernest Leroux, 1929. 400p. with illus. 33.6×25.8 cm (383.135-H)

ジャンヌ・ダルクの伝説は我が国でもよく知られているが、アルマンによる本書は、この聖乙女（ピュセル）ジャンヌが神の啓示によって出陣した時から、生きながら火刑に処されるまでの彼女の服飾、及び甲冑の調書である。15世紀の衣服の実物史料は皆無と言ってよく、また著者はジャンヌの生前に、実際に彼女を見た人によって描かれた肖像画も無いと述べている。しかし、そうした悪条件にもかかわらず、幾種類もの同時代の、あるいはそれに近い時代に書かれたジャンヌ自身、及び当時の一般的服飾に関する——時には互に食いちがった——文字史料と、死後、または生前に入づての情報によって描かれた彼女自身の肖像画とその他の絵画や彫刻の史料を対照させて、著者は能う限りの客観的立場を守りながら事実の究明に努めようとした。そしてジャンヌ自身の服装と甲冑に始まり、当時の全般的服飾についても広くかつ詳細に、しかも生き生きと解説している。こうした著者の態度に関して、のちにF.ブーシェ (François Boucher) は「アルマンのジャンヌ・ダルク時代の服飾に関する著作は、肖像と文献を対照させると共に、技術についても研究し、衣服に対する完全な認識に到達している。」(60)と述べている。

内容は3部からなり、第1部は出身地ヴォクルールを男装で出発し、(1429年2月)、トゥールに至るまで(同年4月)、第2部はトゥールで身体に合った甲冑をみつらえて更に進軍し、コンピエーニュで捕われるまで(1430年5月)、第3部は以後、処刑の時(同年5月30日)までを扱っている。特に第1部では男子服、第2部では武装、第3部では男子服と女子服に詳しい。(能沢)



1433年頃の男子服の袖とその裁断